

「父に生きた人 モーセの遺言 向きを変える ～ヨシュアとカレブになるか？民の様に生きるのか？～

申命記 1：5～11 1：20～46

■ 人間の罪

創生の時代に神様によって造られたアダムとイブは神様といつも一緒に過ごしていましたが、ある時、してはならないと言われていたことを犯してしまいました。その罪を神様が問いただすとアダムは自分の妻を指さして「あなたが造ったこの女が食べると言ったから食べたんだ」と言い返しました。もし私たちが罪を犯した時に「私が悪かったのです」と言えたら社会は大きく変わっていたかもしれません。神様の道ではない道を生きなければならなくなった人間がとった最初の罪です。その罪は代々に渡って一つの間違った価値判断基準を作り上げてしまったのです。しかし聖書はそのままにする人と、間違っただ道を戻そうとする人の二通りの人生の決断を描き、その土台を作り変えてくれるものであることを私たちはもう一度受け取っていただきたいのです。

■ 向きを変えて出発

モーセは民とともに新しい道へ行けと言われた神様の言葉に従おうとしました。しかしモーセは「皆で行くのは危険だから先遣隊を送ってほしい」という民の声を聞いてしまい 12 人を送ることにしたのです。帰ってきた 10 人はやめたほうがいいと報告しましたが、ヨシュアとカレブの二人だけは素晴らしい地だったと報告したのです。二人のこの声に、行きたくない他の民たちは二人を石打ちにして殺そうとしました。神様は考え方や見方が変えられないまま同じ過ちを繰り返してしまう同じような私たちに「向きを変えて、出発せよ。1:7」と言われます。イスラエルの民であるヨシュアとカレブがなぜ考え方を変えられたのでしょうか。

■ しくみ学 vs 聖書から学ぶ

しくみ学というものがあります。例えば、階段を使わない人に使わせるためにアンケート形式で選択肢を貼りつけて興味を促し競わせてみる方法。ごみ箱にごみを入れてくれない人たちのために、わざと投入口にバスケットゴールをつけてみる方法。このように人をやる気にさせる“しくみ”があります。本人の意志とは関係なく決められた方向へ持っていけるこの“しくみ学”によって社会を作っていくのは簡単かもしれません。しかし聖書はそれとは全く違うのです。心の中から芽生える本当の願いと意志を持って人が決断することを重んじているのが聖書なのです。

■ 7つの選択～願うこと～

イスラエルの民は神様の約束の地について入るのかと文句を言い続けていましたが、大きな人や高い城壁を目の前にすると次は行かない理由を並べ続けました。沢山の恵みと奇跡を神様から受けたにも関わらず心が経つと人は忘れてしまうのです。しかし、その中でヨシュアとカレブは決断しモーセに協力し続けることを選んだのです。結果彼らの子孫とともに約束の地を受けることができたのです。民の中には自分の思うままに武器を持って登っていきこうとした人たちがいました。私たちは神様の声を聴いていながら人に正義を振りかざし自分勝手に戦ってしまう弱さがあります。(1:20-47) ここに私たちが学ぶべきことがあります。今回の箇所から読み取れる7つをあげました。

- ・過去 or 将来 (あなたは過去と将来どっちに生きますか)
- ・恐れ or 祈り (恐れるのか祈るのか)
- ・不安 or 信じる (不安のままですか、信じるために祈りますか)
- ・不満 or 感謝 (不満でいっぱいになりますか、感謝に満たされますか)
- ・批判 or 協力 (批判をするとともに協力者はあらわれませんか)
- ・停滞 (考える) or 行動 (考えるより行う方を選びませんか)
- ・嘆き or 改め (嘆くのをやめて改めませんか)

7つのマイナス (過去、恐れ、不安、不満、批判、停滞、嘆き) があなたを支配していないでしょうか。エジプトを出ても不平と不満と文句を言い続けるイスラエルの人々の姿勢は神様が

でもいなくても上手くいかない人生なのです。過去を見る生き方ではなく神様の約束の地に入るためにどうするかを考える方を選びたいのです。大事なことは私たちが信じて願うことです。私たち人間だけに与えられた最大の能力が願うことなのです。願う相手がいて願うことは精神をも安定させます。私たちは願いを探して行動しなければいけません。嘆くのをやめて次のステップに進むために改めていきたいのです。

■ 第30代アメリカ大統領カルビン・クーリッジ ～諦めないこと～

『この世に、粘り強さに勝るものはない。才能？才能があっても成功できなかった例は枚挙にいとまがない。天才？報われない天才という言葉は、すでに決まり文句になっている。教養？世の中は教養ある浮浪者であふれている。粘り強さと断固たる信念だけが、無限の力を持つのだ』

モーセは 40 年間神を信じ諦めずに民を導きました。不平しか言わなかった民から神を選ぼうとするリーダーを育て上げたのです。そして本当の決断を選び取った人たちがモーセの意志を継承していきました。私たちは諦めないことが大事なのです。

「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。」ヘブル 10:36

神様が与えてくださる約束のものを受け取るために耐え忍んでいきたいのです。

■ 心の貧しい者は幸いです

『心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。』マタイ 5:3-4

痛みの中で過去を置き、神様を求めようとする者の姿です。過去を受け止めた人は何が本当の問題であったかを知っているので変わろうと足を踏み出すことができるのです。ヨシュアは変わろうと決断しヨルダン川に足を踏み入れました。すると 40 年間あれだけ彷徨った荒野から彼らはカナンの地に入国していきそびえたつ城壁を 7 日間の祈りで壊し神の選ばれた素晴らしい地で彼らは宿営をすることになりました。不平、不満、非協力的な人生を選びますか、それとも祈りながら愛を表し願いを伝えそしてともに祈る生き方を選びますか。

さいごに

人生をいつも間違えてしまいそうになる私たちにイエス様はすべての痛みを背負うから、もうあなたはそこに生きるなどと言われていました。そしてあなたが元気になったなら誰かを力づけてやりなさいと言われてます。あなたが信じ、恐れを置いて祈るなら神の栄光を見るとわたしはいったではないかと神様は力強く伝えておられます。私たちは進むべき方向を変えたいのです。

人生が新たに回復するために共におられる主が道を開いてくださることを感謝します。本当の喜びが一人一人を覆いますように。

(要約者:西崎 真由美)

(2024年8月25日)